



JAN 2023

Vol.72

発行

23年1月現在

村びと数514人

世帯数171世帯



ホームページ



facebook



Instagram

日本人とうさぎ

今年の干支は「卯」。ウサギは日本人にとって縄文時代以来の馴染み深い動物です。シカ、イノシシとともに狩りの対象となっていたようで、多くの縄文遺跡から見つかっています。動物の骨としてはシカ、イノシシ、タヌキに次いで4番目に多い動物です。青森県の三内丸山遺跡では、ノウサギはシカ・イノシシよりも多く出土し、動物全体の約8割を占めていたことが明らかになっています。当時のムラやその周辺にはクリ林が多く、生育と実の採集のために雑木が切られて草地在り、ノウサギの生育に適していた環境が形成されていたと考えられています。縄文人にとっては冬の貴重なタンパク源として、また寒さをしのぐ毛皮用としても重要な動物だったと思われます。

ウサギは繁殖力が強く、「子孫繁栄」の縁起物にもなっています。生後10か月ほどで子ウサギを産めるようになり、年3〜5回、一度に1〜4頭の子を産みます。縄文時代のムラの周辺にはかなりのノウサギが生息していたものと推測されます。縄文人にとっては冬の貴重なタンパク源として、また寒さをしのぐ毛皮用としても重要な動物だったと思われます。弥生時代以降のウサギについては、骨そのものが残っている遺跡が少なくよくわかっていませんが、『日本書紀』などの歴史書の記載や徳川将軍の鷹狩り、武家の練武などの記録などから、狩りの対象とされていたことがうかがえます。近代以降、陸軍の防寒着の材料としてウサギの毛皮の需要が高まったこともあ

り、ウサギ狩りが盛んに行われましたが、昭和40年代以降は減少し、現在はウサギの減少や狩猟者の高齢化によって衰退傾向にあります。

その一方で、マタギと呼ばれる狩猟を生業とする一部のひとによって、現在もクマやウサギなどを対象とした狩りが続けられています。鉄砲を使った巻狩り（集団猟）やシノビ猟（単独もしくは少人数で行う猟）、罾猟が中心ですが、ウサギについては昔ながらの猟法も伝わっています。ウサギの習性を利用して、植物を束ねた輪（ワラダ）をフリスビーのように投げ、鷹の羽音と思い込み雪穴に隠れたウサギを生け捕りにするもので、ワラダ猟（ワラダウチ）と呼ばれています。秋田県五城目町の中山遺跡（縄文晩期）では径30cm程の同様のものが見つかり、縄文以来の猟法の可能性も考えられます。

ノウサギは今も里浜に生息しています。その姿を見ることはほとんどありませんが、ヤマザクラの苗畑で50cm程に成長した苗がごとごとく食い荒らされたことがありました。芽が出た高さがちょうど良かったのでしょうか。苗の先端が、あの上あごの前歯（切歯）で噛み切れ、鋭く刈られていました。宮戸島で、ノウサギを捕まえていたという話は聞いたことはありませんが、縄文の昔から現代まで生息し続けているのかもしれない。



里浜貝塚出土のウサギの下あごの骨

フィギュア再販します！

開館30周年を記念して、砂像アーティスト保坂俊彦さんの作品「サグウ&サニワ」をフィギュア化。10月のおまつりに合わせて発売したところ新聞でも紹介され、すぐに完売となってしまいました。ただいま再販に向けて製作中です。ひとつひとつ手作りしているため、数量限定・おひとり様1つまでとさせていただきます。



モデルとなった砂像

1/15 再販売！

¥800/ひとつ



※屋外で着色しているため、天候によって作業が遅れる場合がございます。※発売状況は、縄文村SNSで更新予定。ホームページ・Facebook・Instagramがご覧いただけない方は、お気軽にお問い合わせください。

coming soon...

『UMINEKO』同封します！

東北電力女川原子力発電所発行の季刊誌「UMINEKO」に里浜貝塚ファンクラブの活動が紹介されました！ファンクラブ会員の皆様にもご覧いただきたいと、編集部からいただきましたので今号へ同封いたします。ぜひご覧ください。

重要 村民税納入のお願い

ただいま令和4年度（2022年度）分の村民税（ファンクラブ年会費：500円 印刷費郵送費に使用）の納入をお願いしております。

振込用紙が必要な場合は、事務局へご連絡ください。また、納入状況を確認したい場合もお気軽にお問合せください。

納入方法のご案内

- 資料館受付で直接納入
- 郵便局で振り込む
口座記号番号 02210=9=49582
加入者名 里浜貝塚ファンクラブ

※手数料がかかります。数年分まとめての納入もお受けしております。

村民税のお問合せ・退会手続きはこちら

TEL 0225-88-3927

FAX 0225-88-3928

Mail jomon@city.higashimatsushima.miyagi.jp



編集後記

おかげさまで、開館30年の節目を迎えることができました。前号で募った開館30年のお祝いメッセージでは、熱いメッセージをたくさん頂き、スタッフ一同とてもびっくり、そして嬉しく読ませていただきました。新たな気持ちでこれからも頑張ります。

今号はとても読み応えのある文字数となりました。じっくりご覧いただければ嬉しいです。

2023年もよろしくお願いいたします！

次号、4年に一度の「ファンクラブ国勢調査」を行います！

次号、ファンクラブ継続について・登録内容の確認・アンケートなどを行う「ファンクラブ国勢調査」を実施します。ご協力をお願いいたします。

開館30周年記念「丸木舟進水式」、無事に舟が漕ぎだす！！



▲菅原村長から感謝状を贈呈される木村氏。

進水式までの2か月間！

丸木舟作り “ファイナル” !!

10月30日の本番に向けて、急ピッチで進んだ丸木舟作り。村びとさんが駆け付けた「プレ進水」、最後の仕上げを振り返ります。

9/24 プレ進水。
丸木舟は浮かぶのか!?



試に乗ってみたいとちゃんと浮いている！若干の傾きがあるので、舟を斜めにし、調整。



まつりまであと1か月、プレ進水を開催。「きっとバランスが悪くて転覆するだろう…」と予想していたスタッフ達。村びとさんが見守る中、水に入れてみると…う、浮いた!?



10/15,16 どちらに傾いてる??
バランスを整える。

削っては浮かべ…を繰り返す回数。前回は左、今回は右…と微調整が難しい！なんとかバランスよく浮かべるまで削りました。



10/22,23 大炎上!?
丸木舟ファイナル!!



まつりまで1週間。丸木舟の表面を焼く「仕上げ」の作業を行います。実際に出土している丸木舟に焦げ跡が残っており、表面を整え防腐効果があると考えられます。なんとといっても初めてのこの作業、時に炎が大きくなり焦る一幕もありましたが…石で磨き、水洗いしなんとか完成!!翌週のお披露目を臨むばかり!!



（おまつりの様子は2ページ目に続く）